

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2105号

2012年03月19日 (月曜日)

《 very close to the all-time high 》

株高と円安の流れに関しては、相場的には少し調整が入った方が良い状況になってきているのかも知れません。しかし「今の相場がもう若さを失ったのか」と言えば、そうとも言えない。よってモメンタム的にはまだこのトレンドが続いてもおかしくない、と言える。ただし少し歩調は落ちるでしょう。

株を見ると、先週末のニューヨークのダウ工業株30種平均は久しぶりに前日引値より20ドルほど小反落したものの引値は1万3232ドル62セントと、2007年10月9日に記録した過去史上最高値の1万4164ドル53セントに931ドル91セント足りないだけの水準になった。この史上最高値はあと7%強上昇したら届く水準である。リーマンショック(2008年秋)以降の世界経済、アメリカ経済が直面した苦境を考えると、今の株価は正直意外感のある水準と言うことになる。

ニューヨーク市場に限らず東京市場もその仲間だが、ここ一ヶ月あまりの世界的な株価の上昇には、「いくら世界的な金融緩和の進捗を考えても足が速いのではないか」と思わざるを得ない分がある。経済実態を見ても、アメリカ経済は一時よりは強くなったと言ってもまだ住宅市場の軟調など非常に多くの課題を抱えている。雇用状況も改善しつつあるが、雇用の水準そのものは人口の増加を考えればまだ低い。株価の連続的な上昇にもかかわらず、日本の名目、実質成長が去年はまだマイナスであることを考えれば、「ややピッチが速い」と感じる向きもあるだろう。

もっともファンダメンタルズで今の株価の動きを見るべきではない、という見方も出来る。投資の立場から言うと、債券、通貨、商品など他の投資対象はなかなか難しい問題を株式以上に抱えている。債券に関しては、先進世界が共通に「財政赤字問題」を抱えていて、アメリカや日本、それに少数の欧州国など一部の国の債券しか投資できない状況があるし、それらの債券の利回りが魅力的かと問われれば「そうとは言えない」という環境だ。

商品も世界的な景気の底からの上昇があると言っても、途上国経済を含めてまだ底這いの状況であって、それほど浮上したとは言えない。つまり商品相場が大きく上昇する地合に欠ける。世界経済は原油価格がちょっと上がっても腰折れしかねない状況なのだ。ということは、過去数年間に達成した高値にそれほど離れた状況ではないところから、「もう一度材料を見つけて上がる」には厳しい環境と言える。通貨は年金基金などが大

大きく投資するにはなかなか対象として難しいところがある。一部のヘッジファンドや個人の投資家が手がけているだけだ。

つまり世界的な金融緩和の進展状況の中で、今は「株くらいしか規模的に買うものがない」という状況である。「不況下の株高」と言われる状況とはちょっと違うが、先進国を中心に金融が「超緩和状況」の中では、一端その方向にお金に向き始めたら「しばらくその方向に走るしかない」という環境だろう。無論その中で、過熱感を感じる事象も起きている。先週金曜日に「新しい ipad」を発売したアップルの株価はたった一ヶ月の間に500ドルから600ドルに上昇した。世界的な人気企業という側面はあるし「特殊例」とも言えるが、一部でユーフォリアが発生していることが伺える。

こうした状況がもう少し続いたなら、「出口の近いところでダンスパーティーを楽しむ」(enjoy the party but dance close to the door) とよくアメリカの新聞に表現される状況が近くなるが、必ずしも今がそういう状況かというところでもないような気がする。円安基調で海外勢の日本企業の先行きに対する見方は変化していて、買いの意欲は引き続き強いとも言える。

後で掲載するが、今週は米国で景気関連指標の発表が相次ぐ。アメリカの景気の強さを確認する作業が改めて行われるだろう。

《 U.S. might say something about yen 》

一方先週の後半の段階で一時84円台を付けた円に関しても、当然小幅調整の可能性はあるが、「まだ一段安の可能性はある」と見るのが自然だと思う。円安相場の背景については、日銀の緩和に対する強い姿勢の継続や、アメリカ景気の強さなど様々な材料が指摘できる。それらは重要な材料だが、筆者は「過去の円高の行き過ぎに対する反動」もあると思う。日本企業が軒並み「工場の海外展開」を真剣に考えざるを得ないような状況は、その国の経済を通貨(のレベル)が痛めつけていると考えるのが自然で、実際に特殊要因はあるものの「日本の貿易収支、場合によっては経常収支も赤」になってきている。

ただし筆者がこうした流れに悼さすものとして懸念しているのは、「輸出を景気の牽引役にしたいアメリカが、対ドルで円安が進む環境をいつまで容認するだろうか」ということだ。今の円安は現象的には政府の介入と日銀の一段の緩和を切っ掛けに進行しているとも見ることが出来る。日本の対外収支の悪化も要因だが、アメリカの政治家は他国の通貨政策に触れるときには、「政府と日銀が一体となって通貨を操作している」と批判したがるだろう。筆者はそれがまず議会周りから出ると思うが、85円以上の円安場面ではそのリスクを考えておく必要があると思う。アメリカの自動車業界などは日本のTPP 入りにも反対するなど、依然として日本の通貨政策を監視対象から外していない。また「輸出振興」を掲げているのは、オバマ政権そのものである。今のドル高(全通貨に対する)を心地よくは思っていない筈だ。

その意味で、先週私が注目したのはニューヨーク・タイムズと CBS やワシントン・ポストと ABC などの世論調査で「オバマ大統領に対する支持率の低下」が明らかになっていることだ。筆者はテレビ・ラジオを使って共和党の候補者が政策論争ではなく醜い個人攻撃を相互に行い、「激しいが中味のない不毛の対立」を続ける中で、私は米雇用情勢の改善もあり「今年の米大統領選挙は日々オバマが有利になっている」と思っていた。

しかし先週読んだ「Gas prices sink Obama's ratings on economy, bring parity to race for White House」というワシントン・ポストの世論調査記事には、「アメリカ国民にとって、ガソリン価格こそ重要」「あと財政赤字が膨らむのも問題」だそうで、必ずしもオバマ有利ではないとあったし、同じ趣旨の分析はその後のニューヨーク・タイムズと CBS の調査でも出ていた。ワシントン・ポストの記事の書き出しは

「Disapproval of President Obama's handling of the economy is heading higher — alongside gasoline prices — as a record number of Americans now give the president “strongly” negative reviews on the 2012 presidential campaign's most important issue.」

だった。数字を見ると、調査対象となった人の65%がガソリン価格のハンドリングに関して「オバマの手法は承伏できない」と回答。私などはガソリン価格が上昇するのはまず世界情勢であって、必ずしもアメリカ大統領の責任ではないと考えるのだが、アメリカ人はそうは考えない。さらに興味深いのは”雇用”に関してで、オバマ大統領の手法を「承認」しているのは46%に過ぎず、50%の人は「不承認」(disapprove)としている点。「改善したと言っても、まだ雇用の水準は低い」「雇用情勢の改善はオバマ政策の成果ではない」ということでしょうか。だとしたら、確かにオバマ大統領がアメリカ国民に誇れるものはなくなってしまう。ワシントン・ポストには

「Most Americans say higher prices are already taking a toll on family finances, and nearly half say they think that prices will continue to rise, and stay high.」

という文章もあった。ガソリン価格の上下が内閣支持率の大きな変動項目ではない日本との違いは鮮明だが、共和党の混戦で楽勝と思えたオバマも、「一皮剥けば結構厳しい」ということか。ニューヨーク・タイムズはオバマの支持率低下の背景として

1. イランとの迫り来る戦争の危険
2. アメリカ兵が絡む数々の事件によるアフガニスタンの政情の不安定化

なども挙げている。ということは、今はオバマ政権の“貿易”に関する視線は中国に注

がれているが、いつでも“円”に戻ってくる環境はあるということだ。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|----------|--|
| 3月19日（月） | 2月全国百貨店売上高
3月月例経済報告
ギリシャ、CDS決済の評価額確定の入札実施
米3月NAHB住宅市場指数
ダドリー米NY連銀総裁が講演 |
| 3月20日（火） | 米2月住宅着工件数
バーナンキ米FRB議長がジョージ・ワシントン大学で講義「FRBと今日の経済におけるその役割」 |
| 3月21日（水） | 1月全産業活動指数
2月コンビニエンスストア売上高
米2月中古住宅販売件数
コチャラコタ米ミネアポリス連銀総裁が大学で講 |
| 3月22日（木） | 2月貿易統計
米新規失業保険申請件数
米2月景気先行指数
米1月FHFA住宅価格指数
バーナンキ米FRB議長がジョージ・ワシントン大学で講義
エバンズ米シカゴ連銀総裁がブルッキングス研究所で講演 |
| 3月23日（金） | ギリシャ債務交換提案への回答期限（残りの分）
米2月新築住宅販売件数
ブラード米セントルイス連銀総裁が講演
ロックハート米アトランタ連銀総裁が講演 |

《 have a nice week 》

週末はどうでしたか。土曜日はダメでも日曜日は晴れるとの予測でしたが、予想外に雨が長引いてずっと雨の週末でした。皆さんの中にも予定が狂った人が多かったのではないのでしょうか。

ところで先週は、メールであれSNSの書き込み、それらへの返信であれ、私の入力方法が大きく変わった週でした。今までは無論指でキーボードを叩いていた。しかし長い文章を除いて短い文章のスマホでの返信は「90%は音声入力で文章を作成する方法」に切り替えました。あまりにも便利で、もうやめられない。

私のスマホは ARROWS の「F-05D」ですが、そのアプリとして「おしゃべり コンシェル」が入り、iphone の OS が「iOS5.0」から「iOS5.1」にバージョン・アップしたときから文字入力の際に下から出てくる入力パッドの中に「マイクのマーク」があるのは知っていました。先週あるときに突然ですが、「そうだ、使ってみよう」と思って使ってみました。最初「iphone4S」の方で。以下は私が iphone をかざして喋ったことをマシンが読み取った内容です。

「今日の大阪は朝から非常に天気が良い。そこで私はこれからちょっとランニングに行ってきます。俺は音声入力のテストテストですが非常に感度がいいです。これは使えると思う。これからも音声入力で文章を入力していきます。アメリカが fomc 声明を発表しましたこの分析記事も書いたのでお読みください。」

この時点では「。」は手入力しました。「てん」は言わなかったのに、「、」がない。「俺は」の部分は私としては「これは」と言ったつもりでしたが、マシンはそう理解した。「テストテスト」となっているのは、私が間違えて二度言ったからです。「fomc」は理想は「FOMC」ですが、小文字で出てきた。この文章は一文作る度に、「完了」を押してくつったものです。若干の乱れはある。しかし、全体的に言えば、非常に正確に私が言ったことを理解し、転換していると思う。まずこれにビックリしました。

次に、「てん」とか「まる」を良いながら、一気にマシンがどこまで私の喋りに付いてこられるか音声入力してみた。その結果は、

「今日は、非常に天気が良いので、これから外に出てランニングをします。それにしても今の大阪は寒い。今の温度はマイナス一度です。こんなに寒いのは大阪では珍しい。でもお水取りの頃の大阪はやはり寒いらしい。なのでこーれ」

この時点で iphone は自動的に転換作業に入った。これが何文字あるか調べたら、「単語数106」と出た。ということは、100単語くらいで iphone の siri の日本語バージョンは転換に取り掛かると言うことになる。しかし、それを続ければ、相当長い文章も書ける。次に ARROWS の入力パッドの中にあるマイクマークを使ってやってみた。そしたらこちらは候補が出てくる。嬉しいがいちいち選ばねばならないのが面倒。しかも候補は結構数が多い。「まる」や「てん」の呼びかけにも、期待した「。」「、」の方向には反応しない。しかしこれもフェイスブックのちょっとした入力、ツイッターの入力、メールの返信などには全く問題ない。

この三つは私の場合、もともと短い。「使える」と思ったのです。で、先週前半からあちこちと連絡するメール、フェイスブック、ツイッターの類の入力を全部音声入力ですてみた。ほぼ完璧でした。「検索」もそうだが、音声入力は使えると思います。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》